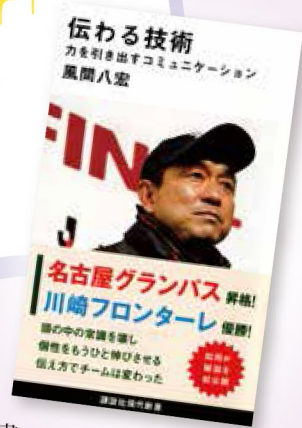


02 特集

明日の医療につなげるNHOの研究活動

- 06 NHO ～こんな取り組みやっています～  
笑顔でつながる院内ミュージカル -東京医療センター-
- 07 スペシャリストの素顔 理学療法士 & 臨床研究コーディネーター
- 09 セーフティネット医療 神経・筋難病の最前線
- 11 地域医療 岡山医療センターの周産期医療
- 13 病院の管理栄養士が考えた 体が喜ぶレシピ  
「きし麺状の“だんご”がポイント～だんご汁～」
- 14 もしもに備えて「あなどることなかれ！やけど(熱傷)の対応」/アンケート

私を支える  
至高  
の一冊



『伝わる技術 - 力を引き出すコミュニケーション』  
風間八宏 著/講談社現代新書

私の息抜きのひとつに、名古屋グランパスのサッカー観戦があります。グランパスはJリーグ発足当初からの名門ですが昨年はJ2に降格し、チームの立て直しのために迎えられたのが前川崎フロンターレ監督の風間八宏(やひろ)氏でした。彼の指導のもと、チームは1年でJ1への復帰を果たしますが、彼がどうやって1年で復帰させたのか、彼の哲学と若手育成の手法がまとめられているのがこの1冊です。

彼の若手育成スキルのひとつに“伝えないから伝わる”というものがあります。今ではマニュアル本があったりして教えてもらうことが当たり前の世の中になっている気がしますが、彼は最

初、わざと何も教えないのです。その狙いは自分学ぶための“受け皿”をつくらせること。選手たちが自分と向き合い、自分はどうなりたいかを考える時間をとることで、自分勝手な常識にとらわれない、学びたいという環境を自らつくるのです。そうした“伝える技術”を基礎とした組織づくりや若手育成のノウハウが詰まっているのがこの一冊で、そこに若手を育成している指導医としての自分の考え方が重なるのです。

私も普段から患者さん目線でのコミュニケーションを心がけていますが、特にコミュニケーションが苦手な若い方々には是非とも読んでほしい1冊です。自分をどう生かせるかを自分で考えることの大切さはサッカーもチーム医療も同じであり、それは組織だけではなく子育てなどにも共通する大切なことだと思うのです。

豊橋医療センター(愛知県)  
臨床研究部長  
脳神経外科部長  
酒井 秀樹 さん



\*今回ご紹介した書籍を抽選で3名様にプレゼントします  
⇒P14をご覧ください

特集  
明日の医療につなげる  
NHOの研究活動  
～臨床研究や先進医療への取り組み～

国立病院機構(以下、NHO)では、長年積み上げてきたノウハウと全国的なネットワークを生かしながら、明日の医療につながる研究や新しい治療・薬などの開発にも力を注いでいます。今回はそうした研究や開発について、先進医療の実例を交えながらご紹介します。



臨床研究

病気の原因の解明や、診断・治療・予防法の開発、あるいはQOL(生活の質)の向上などを目的に行われる研究

臨床試験

臨床研究のうち、患者さんや健康な人に試してもらうことで新しい薬や医療機器などの評価をすること

治験

臨床試験のうち、新しい薬や医療機器について国の承認を受けるために行われる臨床試験のこと。医師主導と企業主導とがある

先進医療

厚生労働大臣が定めた高度な医療技術を用いた治療。将来的に、健康保険が適用される保険診療にすべきかどうか評価するため、保険診療との併用が認められている